



気をつけよう！感染症（令和7年第8号）

令和7年7月2日発行
松本市保健所保健予防課

夏に流行する感染症に注意！！

夏に多く発生する感染症は「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」「RSウイルス感染症」などです。6月頃から子どもを中心に患者数が増えはじめ、7～8月にピークとなります。

	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	RSウイルス感染症
感染経路	接触感染・飛沫感染			
症状	・ 口の中、手のひら、足の裏などにできる発疹、水疱 ・ 発熱（約3分の1にみられる、高熱でないことが多い）	・ 発熱（1～3日続く） ・ のどの痛み、水疱 ・ 合併症：熱性けいれん、脱水症、まれに髄膜炎や心筋炎など	・ 38℃以上の発熱（4～5日続く） ・ のどの痛み ・ 目の充血	・ 発熱、鼻水、咳（数日続く） ・ 喘鳴や呼吸困難が現れることもある ・ 合併症：1歳以下では中耳炎、無呼吸発作、急性脳症など
ウイルス排出期間	便からは2～4週間程度		便からは数か月	通常3～8日
詳しくはこちら （厚生労働省ホームページ）	手足口病  ホームページ  ちらし	ヘルパンギーナ  ホームページ	咽頭結膜熱  ホームページ	RSウイルス感染症  ホームページ  ちらし

予防のポイント



- 手洗い、うがいをしっかりしましょう。
- 症状が落ち着いた後も、患者の便からはウイルスが排泄されます。トイレの後やオムツ交換の後の手洗いを徹底しましょう。
- タオルの共有は避けましょう。

治療方法は？



- 発熱やのどの痛みなどのつらい症状を和らげる対症療法が中心です。自宅で安静に過ごしましょう。
- 症状が悪化した場合は、医療機関に相談しましょう。
- 脱水症予防のため、こまめに水分をとりましょう。